【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年3月10日(2016.3.10)

【公開番号】特開2016-309(P2016-309A)
【公開日】平成28年1月7日(2016.1.7)
【年通号数】公開・登録公報2016-001
【出願番号】特願2015-167768(P2015-167768)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成28年1月22日(2016.1.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
未だ開始されていない可変表示について、前記有利状態に制御するか否かを決定するための情報を保留情報として記憶可能な保留記憶手段と、
保留情報に基づいて、前記有利状態に制御するか否かを決定する決定手段と、
前記決定手段の決定結果に基づいて、可変表示を実行する可変表示実行手段と、
前記有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段と、
前記判定手段による判定に基づいて、前記保留記憶手段に記憶されている保留情報に基づく可変表示が実行される前の複数回の可変表示に亘って、予告演出を実行する予告演出実行手段と、を備え、
前記予告演出実行手段は、前記複数回の可変表示において、第１予告演出を実行するパターンと、当該第１予告演出よりも前記有利状態に制御される割合が高い第２予告演出を実行するパターンと、前記第１予告演出を実行した後に前記第２予告演出を実行するパターンと、のいずれかのパターンで前記予告演出を実行可能であるとともに、
前記第１予告演出の演出態様は複数あり、
前記予告演出実行手段は、前記第１予告演出の演出態様に応じて、前記第１予告演出を実行した後に前記第２予告演出を実行するパターンで前記予告演出が実行される割合が異なるように、前記予告演出を実行し、
前記第１予告演出を前記複数回の可変表示において共通の演出態様で連続して実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記目的を達成するため、本発明の遊技機は、
可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

未だ開始されていない可変表示について、前記有利状態に制御するか否かを決定するための情報を保留情報として記憶可能な保留記憶手段と、
保留情報に基づいて、前記有利状態に制御するか否かを決定する決定手段と、
前記決定手段の決定結果に基づいて、可変表示を実行する可変表示実行手段と、
前記有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段と、
前記判定手段による判定に基づいて、前記保留記憶手段に記憶されている保留情報に基づく可変表示が実行される前の複数回の可変表示に亘って、予告演出を実行する予告演出実行手段と、を備え、
前記予告演出実行手段は、前記複数回の可変表示において、第１予告演出を実行するパターンと、当該第１予告演出よりも前記有利状態に制御される割合が高い第２予告演出を実行するパターンと、前記第１予告演出を実行した後に前記第２予告演出を実行するパターンと、のいずれかのパターンで前記予告演出を実行可能であるとともに、
前記第１予告演出の演出態様は複数あり、
前記予告演出実行手段は、前記第１予告演出の演出態様に応じて、前記第１予告演出を実行した後に前記第２予告演出を実行するパターンで前記予告演出が実行される割合が異なるように、前記予告演出を実行し、
前記第１予告演出を前記複数回の可変表示において共通の演出態様で連続して実行可能である。
また、本発明の他の遊技機は、
（１）各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果として予め定められた特定表示結果が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、識別情報の可変表示を開始するときに当該識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とするか否かを決定する開始時決定手段と、前記開始時決定手段の決定結果に基づいて、識別情報の可変表示パターンを決定する可変表示パターン決定手段と、前記可変表示パターン決定手段の決定結果に基づいて、識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段と、を備え、前記可変表示パターンは、識別情報の可変表示が開始されてから表示結果を導出表示するまでに一旦仮停止させた後に識別情報の可変表示を再度実行する再可変表示を所定回実行する再可変表示パターンを含み、遊技者の動作を検出する検出手段と、前記検出手段による検出結果に基づいた検出演出を実行可能な検出演出実行手段と、複数回の識別情報の可変表示のうち初回の識別情報の可変表示中に前記再可変表示パターンの種類を示す第１特定演出を実行し、前記第１特定演出実行後の識別情報の可変表示中に、今回の前記再可変表示パターンが前記第１特定演出で示す前記再可変表示パターンの種類よりも前記特定表示結果となる割合が高い種類の前記再可変表示パターンであることを示す第２特定演出を実行可能な特定演出実行手段と、をさらに備える。